



KRYNA オーディオラック

Orquesta & AR series

使いこなしテクニックBOOK

ラックは天敵・外敵からオーディオを守るヒーローだ。

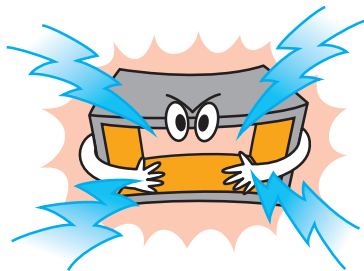
果たしてラックとは何の為に必要なのか？
オーディオ視点で考えてみよう！

【1. 外の振動からしっかりガード】

オーディオの天敵といえば、ご存知「振動」。
これがかなりの厄介者。
音がボケる、濁る、うるさい…
など症状は様々。

本来あってはならないこの有害振動が、
様々な形で音質を劣化させます。
生活空間の中にあるオーディオ機器は、
外からの振動を受けざるを得ません。
周囲を歩き回る家族や向かいの道路を通り抜けるトラックの振動…
と受ける要因も様々。

フローリングや畳といった床の環境によっても受ける影響は千差万別。
こういった様々な迷惑な“揺れ”から守ることが、
ラックの役割の一つです。



【2. 中の振動を外へ逃がす】

もうひとつ忘れてはいけないのが、機器が出す振動です。
アンプやプレーヤーに触れると感じるこの小刻みな振動。
この内側から発生する悪玉振動も、
外部から受ける振動以上につきまとう厄介な天敵です。

そこで、この振動をスパッと外界へ逃がす。
これが、オーディオラックのもう一つの役割です。

どうでしょう？
目からうろこの役割！？
見た目や便利性のほかにも、もっと大事な
オーディオラックのあるべき姿が見えてきましたか？
オーディオシステムを効率的に収納しつつ、
音が良くなるオーディオラック。
でも、そんなラックがないから困るんですよね…。

**そんな都合の良いラックなんて…
あるところには、あるんです。**

振動と戦う KRYNA が立ち上がりました。
使いやすくて、音が良くなるオーディオラックを！



音楽を楽しむために考えた、オーケストラという名のラック。

KRYNA Orquesta (オルケスタ)

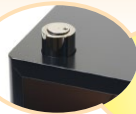
解体新書

一段ずつ組合せできる
自由なレイアウト性！
(P7へ→)



ラックの底板と同じ構造の
オーディオボードも追加できる。
サイズも当然ジャスト。
(P9へ→)

でも、
なぜ銅板??
(P5へ→)



オプションで
D-PROPminiが
追加できる！
(P6へ→)

オルケスタホール(穴)
も空気や熱の逃げ道！
持ち運びにも便利。

前面・背面を開放することで、
空気(音)の流れ道を確保！

一般的なオーディオ機器は
ほとんど置ける余裕のサイズ。

ちょっとお洒落な
七宝焼きロゴプレート

貫通！

高さ(内寸)
15,20,25,30,35cm
から選べます

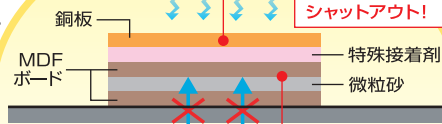
奥行(外寸)
42 cm

横幅(外寸)
52 cm

銅板の背面には、
アース用のネジ穴(3mm)を装備。
アースを取ることでノイズが減り、
雑味の少ない明瞭な音を
引き出します。

機器の振動を逃がす

“銅パワー”で余計な磁界を
シャットアウト！



振動

外部からの
振動に配慮

上下からの容れない
振動を処理する
微粒砂と高密度MDFの
サンドイッチ。

オルケスタの核、
ミルフィーユ構造

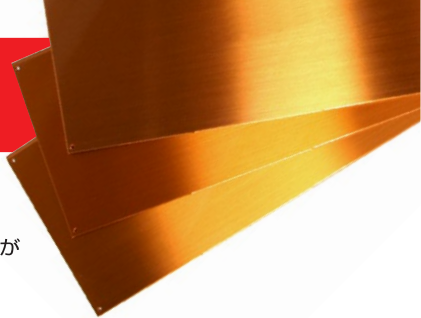
“磁場”を打ち消す 銅パワー!!

オーディオのあるところに”磁場”あり…。
それもそのはず、電気が通れば必ず生まれるのが
この「ジバ」。目には見えない厄介者。

オーディオに電気が流れると必ず発生する磁場は、
内部の小さな部品から筐体まで隔々にわり影響を及ぼしています。
一つ一つの影響はとても小さな物ですが、
その小さな影響の積み重ねによって、音が幾重にも重なり、
ボヤけた、雑味のある音となって現れてしまいます。
本来在るべきではない磁場の影響を抑え、本来の音を取り出しやすくする…
この役割をするのが”銅”なのです。

銅は反磁性体のため、磁場を”打ち消す”働きにとっても優れています。
ただ重厚でかっこ良いだけでなく、この不要な磁場をスーッと吸い取り、
本来の音へと近づけてくれるのです。

オルケスタラックでは、機器が発する磁場を底板の”銅板”が打ち消し、
本来の能力を引き出すと共に、外部への影響の軽減にも効果があります。
だから、オルケスタラックを使うことで、
自然でS / Nの良い、なめらかなサウンドになり、
視界が澄み渡るような音場空間の再現につながるのです。



D-PROP miniを 追加するとどうなる？

オーディオの天敵“振動”にも着目したオルケスタ。
さらなる対策のために、振動を逃がすための
インシュレーター「D-PROPmini」を追加し、
振動ゼロとパワーUPを目指します。

D-PROP miniは、高さ 2cm 程の小さな体に
スパイクを 2 段重ねて封入し、
液体を満した特許取得の円筒形インシュレーター。

この D-PROP mini をラックの足元や、
ラックとラックの間に挟み込むことで、
「上から下へ」と振動エネルギーを段階的にレベルダウンさせます。
特に、音を濁らせる要因とされる微振動や
高調波歪みの処理に効力があるため、
ざらざらした雑味感、不用なカラーレーション（色づけ）が
すっきりと除去され、本来のサウンドが生き生きと再現されます。

ラックで対策、さらにインシュレーターで対策。
ダブル、トリプルの効果が楽しめます。

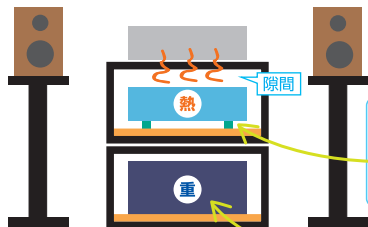


底にもminiが納まる
穴が開いています！



さあ、実際に使ってみよう!

例えば、こんな風にセッティング。
機器それぞれのサイズに合わせて一段ずつ積み重ねができます。
又、最初はアンプだけにラックを使い、
プレーヤーはラックの上に乗せるだけ。
といった様に、機器の増加に応じて
徐々にラックを増やすこともできます。



贅沢を言えば、全部の機器をオルケスタに入れたい!でも、機器の数多くて予算の都合が…。テレビ台として、ホームシアターでも活用したいし…。そんなときは!

インスレーターを使う予定があれば余裕を持った内寸を選びましょう。熱の心配がある場合は、一段(5cm)大きいサイズを選ぶと良いでしょう。

出来るだけ、重量のある機材を下に。

TVも置けちゃう組み合わせ。

例えば、こんな風にセッティング。
機器それぞれのサイズに合わせて一段ずつ積み重ねができます。
また、最初はアンプだけにラックを使い、
プレーヤーはラックの上に乗せるだけ。
といった様に、機器の増加に応じて
徐々にラックを増やすこともできます。

そこで登場!
ARシリーズ



銅板レスタイプのラック。
オルケスタと同様の
MDF+砂+MDFの
振動処理サンドイッチ構造。



高さが揃うように組む。

ビュアオーディオには、上位モデルのオルケスタを!

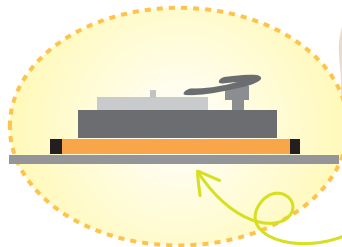
A&V機器類には、ARシリーズを。

ボードだけでも 大活躍。

オルケスタ ボード
〈OR-TB〉



既存のラックを活用し、もう少し音質をグレードUPさせたい！そんな時には、ラックの底板部がボードになった〈OR-TB〉が活躍します。微弱な信号を扱うアナログプレーヤーや、特に改善したい機器の下に設置すれば、機器を振動から守り、本来の能力を引き出します。



ARシリーズ専用 オーディオボード

「AR-3T」はARシリーズとのデザインの相性もバッチリ。ラック上に載せて使用するほかに、チューニングボード単体としてもお使い頂けます。



オルケスタや AR でも、積み重ね予定が無い場合、ラック天板にこの〈OR-TB〉を載せてその上に機器を設置する方法もあります。天板に機器を直置きも可能ですが、〈OR-TB〉を使うことで強度もUPし、音質が格段に向上します！



◆組み合わせ例：
OR-TB+OR-20+OR25

ヘッドホンアンプや コンパクトサイズのシステムには…

オルケスタ
スモールボード
〈OR-3040/3345〉



OR-3040



OR-3345

USB DAC、デジタルアンプ、iPod用ドック、ヘッドホンアンプ、HDD/BDプレーヤーなどコンパクトシステムからスピーカーまで、ノイズと振動が気になる様々なシステムの磁界による悪影響を遮断します。また、Orquesta独自のミルフィーユ層が機器の振動を処理し、床からの振動も遮断します。ブックシェルフスピーカーの下には一番小さな OR-3040 を。ツールボーイには OR-3345 を。といったように、あなたのシステムに合わせて最適なサイズをお選び下さい。



OR-3040 + K102



OR-3345 + D502

型名	OR-3040	OR-3345
外形(mm)	W300 × H32 × D400	W330 × H32 × D450
重量(kg)	5.1	6.5
販売価格(税込)	¥38,850	¥44,100

さらに… ベースボード活用のススメ。

オルケスタ ベースボード
〈OR-BB〉

このベースボード〈OR-BB〉と一緒になら、D-PROP も使えます。
〈OR-BB〉には、2種類の穴が裏表に装備されているので、標準サイズのD-PROPを追加したい時には、このボードを使えばD-PROPがぴったりと設置できます。♪



◆組み合せ例



OR-20+OR-BB+D-PROP



OR-20+OR-BB+D-PROP mini



OR-20+OR-BB

D-PROPmini用の穴

D-PROP用の穴

床の強度が心配なときにも、〈OR-BB〉の使用がおすすめ。
ラックの下にこのベースボード敷くことで、下からの振動の影響を軽減させ、ラックの効果を活かせます。

Orquesta User Review

これは KRYNA 製品、KRYNA チューンをやるだびに感じるのですが、従来のボードから OR-TB に変えたたん、更に“生”で、更に音が飛んで、更に新しい音が聞こえるようになります。これが本当に劇的に向上しました。音が更に研ぎ澄まされて、低域も、高域も、その中間域までもが、どこまでも伸びて飛んできます。日本酒に例えるなら、純米大吟醸が、更に吟醸されたというか、余計な成分が更に取れて純化された感じです。同じソフトからこれまで聞こえていなかった音が聞こえてきて、新しい発見が楽しくて、持っているソフトを片端からかけて楽しんでます。

Orquesta のラックに変えて、より聞きやすくなったと思います。聴きづかれしなくなって長時間の音楽鑑賞が可能になりました。そして、今回さらに良かったと感じたのが、映像系とピュアオーディオの両者を同じ場所で楽しんでいる小生にとって、持っている機器のサイズに応じて一つずつ増やし、レイアウトをシュミレーションしながら、自分の好きなパターンの設置が容易にできることでしょう。

特 濃生搾り感が一回りアップしたようです。エネルギーです。ある一つのなにかがカギとなって、音の分解能を向上させ、それを中心に、有機的にほかの評価項目の性能が引き上げられているような印象を持ちました。銅の電磁波抑制効果がカギなのかもしれません。女性ボーカルは、潤いが増し、生々しくなり、オーケストラは、静寂と大音量の変動がより明確になります。ロックは、様々な音が、さらに分離して明確になったようで、新たな発見ができておもしろいです。たとえば、ギターの演奏で、ここはワウを使ってたんだな…ふと気づいたり、バスドラムの音が、足でキックしたことが想起されるような、塊感？が増して聞こえました。全体的にペールが一枚剥がれたように感じます。

KRYNA Orquesta series



OR-TB



OR-BB



OR-15



OR-20



OR-25



OR-30



OR-35

型名	OR-TB	OR-BB	OR-15	OR-20	OR-25	OR-30	OR-35
外形(mm)	W520 × D420 (全種共通サイズ)						
内形(mm)	-	-	W490 × D420 (ラックタイプ共通サイズ)				
高さ外寸(mm)	32	12	195	245	295	345	395
高さ内寸(mm)	-	-	148	198	248	298	348
重量(kg)	9.0	1.5	13.0	13.5	14.0	14.5	15.0
販売価格(税込)	¥51,450	¥15,750	¥56,700	¥57,750	¥58,800	¥59,850	¥60,900

KRYNA AR series



AR-3T



AR-150



AR-200



AR-250



AR-300



AR-350

型名	AR-3T	AR-150	AR-200	AR-250	AR-300	AR-350
外形(mm)	W520 × D420 (全種共通サイズ)					
内形(mm)	-	W490 × D420 (ラックタイプ共通サイズ)				
高さ外寸(mm)	30	195	245	295	345	395
高さ内寸(mm)	-	150	200	250	300	350
重量(kg)	5.5	9.5	9.7	10.0	10.2	10.5
販売価格(税込)	¥24,000	¥29,000	¥30,000	¥31,000	¥32,000	¥33,000